



子どもたちとボールを使ったゲームをする波戸さん(右から2人目)

元Jリーガーが先生に 和泉小で「夢教室」

サッカーの元Jリーガー2人が2月14日(日)に和泉小学校で「夢の教室」を開き、5年生の子どもたちにゲームやトークを通して夢の大切さなどを伝える授業を行った。

公益財団法人日本サッカー協会が「JFAこころのプロジェクト」として平

成18年から実施しているもので、子どもたちの心身の成長に寄与することを目的に、Jリーグやなでしこリーグなどのサッカー選手や各競技のアスリートを「夢先生」として

小・中学校へ派遣、「夢の教室」を開いて、体を動かすことや仲間と協力する大切さ、夢をもつことのすばらしさや夢に向かって努力する大切さなどを子どもたちに伝えていく。これまでに全国で延べ約13,000回開かれており、狛江市では今回が初めて。

この日の授業は3クラス101人の5年生を対象に各クラス1時間40分ずつ行

われた。元サッカー日本代表で横浜F・マリノスなどでプレーした波戸康広さんと、FC岐阜などの選手だった野田恭平さんが交代で「夢先生」を務めた。

体育館では「ゲームの時間」を35分間行い、クラス全員が参加してジャンケンやボールリレーなどのゲームに挑戦した。ゲームを楽しむだけでなく、クラスメートとタイムが短縮できる方法や作戦を相談することで、みんなで互いに協力して目標に向かう大切さを学んだ。

教室で行われた「トークの時間」では、波戸さんと野田さんがサッカーを始め、たきかけやプロサッカー選手になるまでの体験などを話した。波戸さんは、中学1年の時、レギュラーに選ばれたため上級生のいじめに遭い、学校で部活を続けられなかったことや、高校時代にケガで練習できなかった苦しい思い出などを子どもたちにわかりやすく披露。「夢をかなえるためには、目標に向かう努力と支えてくれる人が必要です。そして、君たちが努力する姿を見ている人が必ずいるので、諦めない気持ちをもって夢に向かってください」と訴えた。

幼稚園の頃からサッカーを続けている田中豪君は「ゲームは楽しかったし、波戸選手の話に勇気も頂きました。将来はチームを引っ張っていけるようなサッカー選手になりたい」。佐

藤末涼さんは「諦めずにやり続けることが大切だとわかったので、私は小さいときからやってきた水泳がんばります」と決意を新たにしていた。

小学生が綱引き大会 力とチームワーク競う

狛江市少年少女綱引き大会が2月3日(日)に狛江市民総合体育館で催され、市内の小学生10チーム87人が力とチームワークを競い合った。

地域に豊かな人間関係と居場所を作ることを目的に毎年催されており、ことしで20回目。狛江消防少年団Aチームの白井大さんが「ルールを守り、元気よく楽しく競い合うことを誓います」と選手宣誓を行った。

試合は、1部が3～6年生、2部が3・4年生で編成されたチームが参加、リーグ戦を行った。1部はリーグ戦の上位2チームによる決勝トーナメントで順位を決した。試合は男女混合の8人で編成したチームが太い綱を引き合ったが、顔を真っ赤に染め、大きな声を掛け合って力を入れるタイミングを合わせるなど熱戦を展開、なかには1分以上に及ぶ熱戦もあり、応援席から盛んな声援が送られていた。

1部で優勝した野球チーム・狛江フェニックスの



1部で優勝した狛江フェニックス(右)

老舗めぐり

◆74◆

松原通りのバス停留所近くにある森田薬局(和泉本町2-25-2)は、市内で最古参の薬局のひとつ。

現在の薬局開設者で管理薬剤師の森田彰さん(58)の母・静枝さん(91)が創業した。静枝さんは長崎県生まれだが幼い頃に家族で上京、葛飾区お花茶屋で育った。6人兄弟の長女だった静枝さんは学業成績が優秀で、一生続けられる職業に就きたいと親に大学進学を頼み込んだ。父は靴職人で家は裕福ではなかったが、両親は彼女の願いを聞き入れ、共立薬科大学(現・慶應義塾大学薬学部)に入学した。大学で薬剤師の資格を取得、卒業後は東京通信病院で薬剤師として働いた。病院に勤めていた頃、日本電信電話公社(現・NTT)職員だった森田吉平さん(大



開店当時の薬局と森田静枝さん

正15年～平成27年)と結婚、調布市入間町にあった社宅に転

居、彰さんら2人の息子を育てながら病院で働き続けた。静枝さんは自分の薬局を持ちたいと考えて適地を探していたところ現在の場所を見つけた。周辺に薬局が少なく、狛江町(当時)は人口が急速に増えていたため、将来性があると判断、昭和40年に店舗付き住宅を建て、病院を退職して薬局をオープンした。

狛江郷土カルタ大会 21日に青年会議所が開催

狛江青年会議所が「狛江郷土カルタ大会」を21日(日)午前10時から午後0時

相談に力入れる漢方薬中心の「地域の薬箱」

森田薬局

居、彰さんら2人の息子を育てながら病院で働き続けた。静枝さんは自分の薬局を持ちたいと考えて適地を探していたところ現在の場所を見つけた。周辺に薬局が少なく、狛江町(当時)は人口が急速に増えていたため、将来性があると判断、昭和40年に店舗付き住宅を建て、病院を退職して薬局をオープンした。

開店当時は医師が出した処方箋を扱う調剤と一般的な薬の販売に加え、洗剤などの日用品も扱った。薬局が軌道に乗ると、勉強熱心な静枝さんは専門職として特色を出したいと考え、当時は珍しかった漢方医学や漢方薬の講習会に通って知識を習得、2、3年後に漢方薬も扱うようになった。店で扱う薬の多くが漢方系となり、症状に応じた薬を選ぶため患者の相談に乗ることに力を置くようになった。

静枝さんの長男の彰さんは、顧客の健康相談に応じる母の姿に接するうちに、小学生の頃から薬剤師になって店を継ぎたいと思い、狛江第五小学校卒業後、横浜市の私立中学校、高校を

病院勤めから独立、昭和40年にオープン／「未病」の相談にも対応

15分まで狛江市民総合体育館で催す。

狛江郷土カルタは平成28年度につくられ、狛江の歴史や文化、自然などを題材に絵手紙でかいた絵札と読み札各44枚からなっている。同会議所ではこのカルタを親子で楽しみながら狛江について学んでもらおうと初めて開催する。

大会は幼児部門(3～6歳の未就学児と親1人)低学年部門(1～3年の小学生と親1人)に分かれ、各部門36組72人が競技を行う。また、狛江市社会教育課の職員がカルタについて説明する。

また、カルタ大会と合わせてフォトコンテストを3月21日(日)から6月30日(日)まで開催する。

応募はインスタグラム、フェイスブック、Eメール(Mkomae.local.karuta@gmail.com)で受け付ける。大賞(1人)には表彰状と地域の特産品詰め合わせが贈られる。

問い合わせMkomae.local.karuta@gmail.com秋元

春の火災予防運動 3日に消防ふれあい広場

「火の用心 一人一人の心掛け」を合い言葉に1

経て昭和薬科大学に進んだ。卒業後はドラッグストアで薬剤師として7年間勤務、接客や販売を学んだ。退職して実家で静枝さんとともに働くと同時に、漢方医学の勉強を本格的に始め、日本漢方協会などのセミナーに参加するなど知識の習得に努めている。

彰さんによると、母の代から病院のカルテのように相談内容を書き込んだ台帳を作成しており、今も役立っているという。また、現在は「未病」と呼ばれる、まだ発病していないが体調が思わしくない段階での相談に力を入れており、その人の体に合った薬を選んでいる。なかには新潟や大阪など遠方から電話で相談する人もいるという。彰さんは「母の時代から『地域の薬箱』として役立ちたいと思って続けてきました。気軽に相談に乗れるかかりつけ薬局として続けていきたいです」と話している。

森田薬局 ☎3489-3113 営業時間＝午前9時～午後9時(日・祝日午前10時～午後8時) 無休(年始除く)

日頃から7日(日)まで春の火災予防運動が実施される。

狛江消防署では3日(日)午前10時から午後2時まで同署で「消防ふれあい広場」を開催、はしご車搭乗体験(年齢、身長制限あり)、ミニ防火衣の着脱、放水体験などを行う。

5日(日)午前11時から11時30分まで狛江市役所と同署、狛江市消防団などによる消防演習、狛江市役所職員による自衛消防訓練を実施する。

問い合わせ ☎3480-0119 狛江消防署。



障がい児のART展

スポーツ

NPO法人バリアフリーセンター 福祉ネット「ナナの家」(皆河える子代表)が、狛江市民活動支援センター(こまえくぼ1234)と共催で16日(日)から29日(日)の午前10時～午後5時に同センターで「ななNAなななな…なんになる!?ART展2019」(狛江市・狛江市教育委員会・狛江市社会福祉協議会後援)を催す。ナナの家が運営する障がいがある子どもの放課後デ



制作に励む障がい児

イサービス「ほっぷ・すてっぷ」は平成29年度から臨床美術士・平山淳子さんの指導でアート制作を月4回行っており、昨年3月に初のアート展を催し、色使いや自由な表現などが好評を集めた。2回目の今回は、10人の子どもの1年間に制作した大きな白い布などに共同で描いた絵画、版画、透かし絵、陶芸など約50点を展示する。23日(日)午後2時～3時には「違いを認め合う社会実現プロジェクト ナナの家キャラバン隊」を開催、コミュニケーションや見え方などに障がいがある人の生活の一部を体験する出張講座が行われる。また16日(日)・18日(月)・22日(金)・27日(日)・28日(日)にはチョコレートの詰め合わせを販売する「チョコボラ」(チョコレートを食べてちょこっとボランティア)を実施する。平山さんらは「多くの人に作品を見てもらい、見る人も制作者も気持ちのいい空間と時間を共有したい」と参加を呼びかけている。

問い合わせ ☎5438-2773 ナナの家。